

経営比較分析表（令和5年度決算）

佐賀県 佐賀市

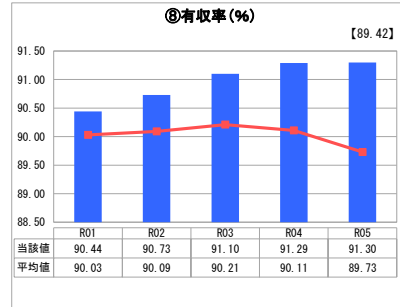
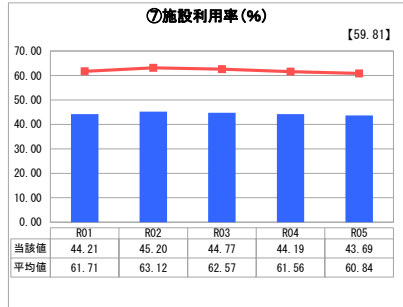
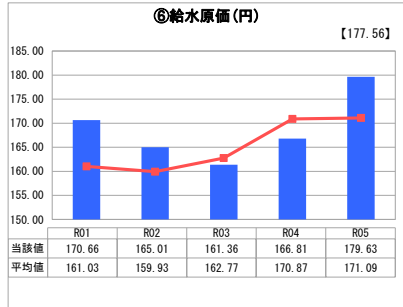
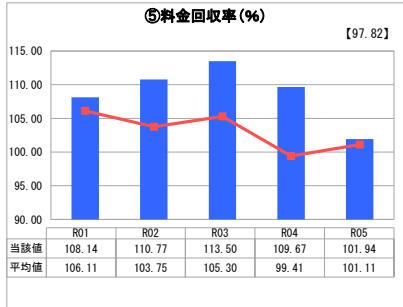
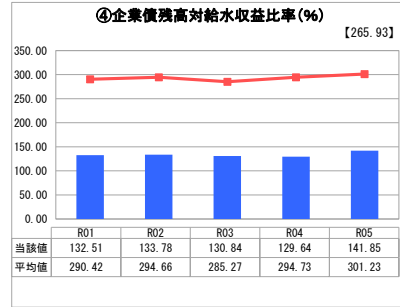
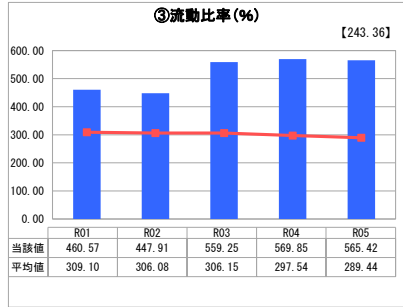
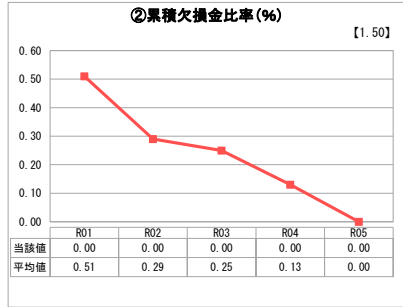
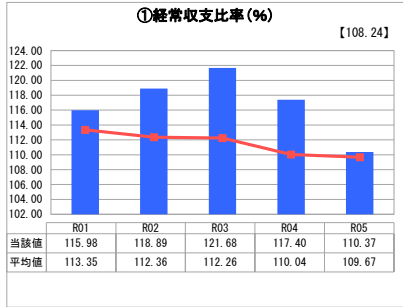
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	78.55	85.80	3,520	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
228,042	431.81	528.11
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
194,816	153.59	1,268.42

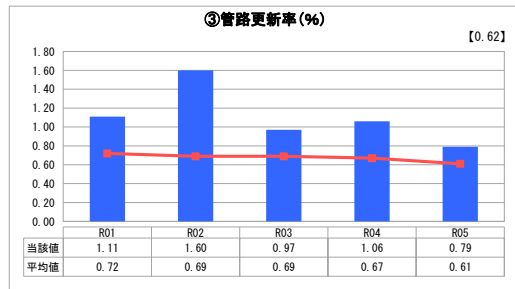
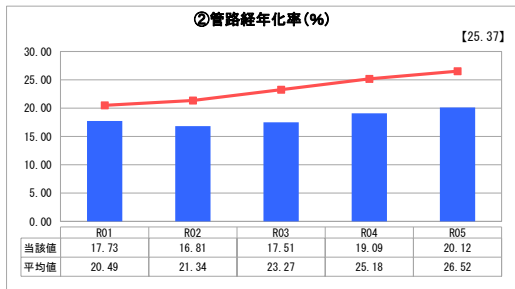
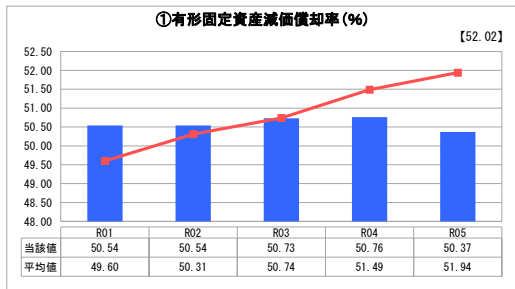
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当市の水道事業は、2度の市町村合併や簡易水道事業の統合などにより、給水区域が変更されてきた。また、令和2年度に久保田地区を当市の給水区域に統合した。

令和5年度は、国土強靱化計画の見直しに伴い、基幹浄水場の大規模停電対策として、自家発電設備を整備することとし、令和3年度から5年度までの3か年で整備を完了した。

①は、常に100%を超えて推移している。令和5年度は、1件あたりの使用水量の減少に伴い、給水収益が減少し、水道管施設や浄水場施設等の委託料や修繕費が増加したため、比率が減少している。

③は、類似団体平均値と比較して高い水準を示している。

④は、類似団体平均値と比較して低い値で推移している。

⑥は、類似団体平均値と比較して高い水準を示している。令和5年度は委託料や修繕費、減価償却費等が増加したため、前年度比で増加している。

⑦は、類似団体平均値と比較して低い水準となっており、受水が要因となっている。受水を行わなければならない地域の特殊事情によるものであるが、今後、適正な施設規模への転換を検討する必要がある。

⑧は、老朽管や給水管更新による漏水減少の効果等により増加している。

2. 老朽化の状況について

①は、類似団体平均値を下回っているが、依然として償却対象資産の減価償却が進んでいる状況であり、老朽化は進んでいる。

②は、常に類似団体平均値を下回っており、配水管等の必要な更新を適切に行っている。

③は、類似団体平均値と比較して高い水準で推移しており、必要な更新を適切に行っている状況である。配水管については、「佐賀市水道事業経営戦略」内の2つのプラン「管路耐震化30年プラン」及び「老朽管70年プラン」に基づき、計画的に更新を行っている。

全体総括

水道事業においては、「佐賀市上下水道ビジョン」及び「佐賀市水道事業経営戦略」を策定し、将来にわたって安定的な事業を継続していくこととしている。

当市では、特に施設利用率について課題が残るものの、経営の健全性は保たれている。

しかし、今後も人口減少による給水収益の減少が見込まれる中で、浄水施設の大規模更新等が控えており、当市の資金が減少することが想定される。

このため、適正規模を見極めた浄水施設再構築基本構想の策定に着手した。また、計画的な管路の耐震化や老朽管の更新を実施し、投資額の縮減を図るとともに、広域連携・官民連携の推進、将来的には、人口減少社会に対応した水道料金制度の最適化が必要である。